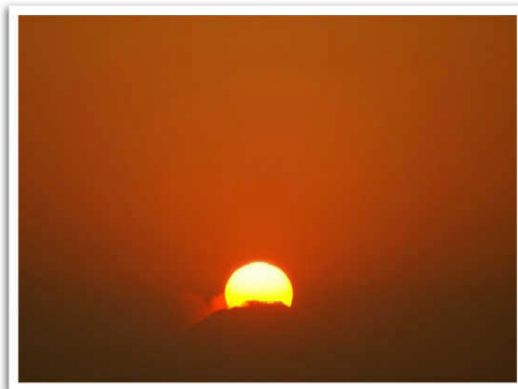


ホーム > 市民レポーター > 80点に970票・・・富士フォトコン裏話・・・

### 80点に970票・・・富士フォトコン裏話・・・

“くるくる”に市内のKさんからメールが入った。写真付で「富士山がきれいに見えるこの季節に写真コンテストでも企画されたら如何でしょう・・・」。12月初旬のことである。スタッフが飛びついた。

例年、12月の冬至を前後して、太陽が富士山頂から沈んで行くダイヤモンド富士の瞬間をカメラにおさめようと、マニア達が東久留米駅の富士見テラスに三脚を並べる。

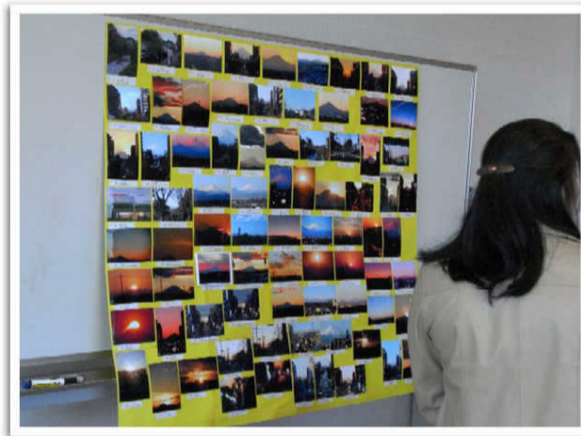


この時期を逃す手はない。ただ、“くるくる”主催の事業が二つ三つあとに控えている。年度末で忙しい。予算もない。さあどうしよう。スタッフたちに一瞬ためらいはあったが、ヤルツキヤナイ・・・これが報道魂だ・・・なんて変な理屈をつけて実施に踏み切った。

さあ、これからが大変だった。ポスター・チラシなどの呼びかけは？・・・新聞発表は？・・・投稿作品の受け皿は？・・・入賞作品の表彰は？・・・入賞作品の発表と展示は？・・・

結果はご承知のようにすべてデジタルベースの企画での勝負となった。ポスターは富士が見えるビューポイント10箇所程度。チラシは配布しない。代わりに“くるくる”からの呼びかけを徹底する。繰り返し関連記事をアップロードする。口コミでメル友にも呼びかける。“くるくる”というパソコンのメディアを最大限に活用する。この結果は、“くるくる”の利用頻度のバロメーターにもなる。

デジタルだけに頼って作品が集まらない時にはどうしようという心配はあった。東久留米の富士八景だから8点集まれば成立するね、なんて冗談も出たが、心の余裕は全くない。笑いが伴わない強がりのジョークでもあった。



また、予期せぬハプニングもあった。私の携帯にある時、電話が入った。「自分は清瀬に住んでいるが、このコンテストに投稿できますか」・・・「出来ます」・・・「自分のカメラはデジタルではなくフィルムですが」・・・

「デジタルでないと無理です」・・・「でも諦めきれないのです。素晴らしいシャッターチャンス写真を撮ったのです」・・・「分かりました。カメラ屋へ行って訊いて折り返し返事します」・・・「もしもし、フィルムでも大丈夫です。カメラ屋へネガをもって行ってください。CDに落とせばデジタルになります。値段は600円ちよつとです。それをパソコンに入れて画像を選択し2点だけメールで投稿してください。」・・・「分かりました。そうします。が、私はパソコンを持っていません。どうすればいいでしょうか。」・・・「私達の“くるくる”の事務局が滝山にあります。そこでパソコンに落とし込むようにスタッフに頼んで下さい。私からも電話しておきます・・・」

という訳で、めでたく投稿完了でした。何回かの電話での思わぬふれあいでした。

私が知る限りでは、このようなアナログの人が他にもおられた。デジタル至上ではないということを痛感させられた一幕でもあった。

このことがスタッフ達を方向転換させた。パソコンで見てもらって、投票は紙で投票箱へ・・・クロスメディアの時代である。PC、紙媒体のプレス紙、ミニコミ誌、テレビなどの媒体をクロスオーバーしてPRする。情報過多の時代に生き残る最後の道かもしれない。

結果は80作品を投稿していただき、970票（370名）もの投票を得た。「東久留米の富士八景」が決まり、市長室での表彰も終わった。

フォトコンは成功であった。予想以上に多くのおみなさんに関心を持っていただき、投稿していただいた写真への添え書きにも、フォトコンのために寒空で、懸命にカメラを構えておられる姿が想像でき、心温まる思いをさせてもらった。また、くるくるを見ていただいた訪問者も通常の倍以上の賑わいで、文字通り成功裏に幕を閉じた。



最後に蛇足であるが、12月から2月まで、パソコンの前に張り付いた裏方スタッフ達のことにも是非心に留めておいて欲しい。猫の手も借りたい師走に、或いは正月に、24時間中、みなさんのメールにこたえて、みなさんの投稿作品をアップし、投票数を集計してくれた楽屋裏のスタッフがいたことを。

去年（こそ）今年 貫く棒のごときもの （高浜虚子）

という句を思い出した。今年も一年間、貫く棒のごとく“くるくる”と舞いあがるのかなあ・・・

市民記者養成講座参加者 21.2.18 りきムーナ記